

第5回鹿野地域振興会議

日 時 平成28年10月25日(火)

13:30～16:00

場 所 鹿野町総合支所 会議室

出席者 井上秀隆委員、乾隆史委員、佐々木千代子委員、筒井洋平委員、田中文子委員、
林輝幸委員、伊井照幸委員、山本章委員 8名出席

事務局：徳岡支所長、乾副支所長、岡田産業建設課長、上野市民福祉課長、西浦地域振興
課補佐 交通政策課青木課長補佐、竹中主幹、鳥取市水道局山根給水維持課長、
鳥取市水道局青谷営業所中島所長

傍聴者：なし

1 開会

2 会長あいさつ

10月21日鳥取県中部地震が発生しましたが、鹿野地域では大きな災害もなく、人的な被害もなくよかった。鳥取県中部地震の被害状況などを経過報告の中でお願いします。

3 報告事項

(1) 経過報告について

資料1

事務局より資料1により、特に岡井集落の土砂崩れによる避難体制の状況と今回の鳥取県中部地震の被害状況を報告。

委員1 小別所集落の集落水道に濁りがあったが、鳥取市として給水車の支援はなかった。鳥取県中部へ給水車が優先されて行っているのはわかるが、飲料水が濁っている状態なので、民間業者からのリースとか岩美町から給水車を借りてくるとかできなかったのか。

事務局 水道水の濁りについては把握している。支所から職員を1名派遣し対応している。集落の自治会と協議し、近くの集落から飲料水を汲みに行ったり、ポリタンクの貸し出しは鹿野町総合支所で行うことなど決め、集落で対応することになったと聞いている。

会長 小別所集落の班ごとでの対応がうまくいっていなかったようだ。丁寧な情報提供

がなされていなかったようだ。小別所の方がマーケットに水を購入に来ていたが、飲料水は売り切れていた。個人的に2リットルのペットボトル5～6本に水を汲んで持って行ってあげた。鷲峰集落では公園に4人の方がゴザを敷いて暗くなるまで待機されていた。個人的な助け合いは必要だが、組織的な助け合いが必要である。

委員2 紺屋町では自主防災会で水道の漏水点検を全戸で行った。また、総合支所からブルーシートを借りて、屋根の補修を行った。

(2) 鹿野地域小中一貫校推進状況について 資料2

事務局より資料2を基に説明。

委員5 小中一貫校の開校を目指しているが、子供たちにとってどのような教育の在り方がよいのか正解のない話し合いを続けている。

会長 子供たちにとってよりよい教育を考えている。施設分離型でどのようにしていくのか具体的に検討している。

4 議題

(1) 宝木～河内線の循環バスについて

事務局より資料3を基に説明。

委員3 平成29年度からスクールバスが廃止となり、鬼入道集落にも朝夕バスの運行があるようだが、一般の住民も乗車できるか。

事務局 乗車できる。

委員2 29人乗りのマイクロバスであると運行経費が多くなるのではないか。

事務局 マイクロバスの燃料は軽油で安価であり、燃費も普通車とかわらない。また、循環バスの運行経費は、そのほとんどが業者への委託料、運転手の賃金のため、マイクロバスでも普通車でも経費はかわらない。

議員4 予約運行ということで、宝木～河内線の増便は予約が必要だが、予約した人しか乗車できないか。途中のバス停には止まらないか。

事務局 利用していただいてもよい。ただ、予約制バスは途中のバス停には止まらない。

会長 いきなりの予約制ではなく、3ヶ月くらい試験運行してみてはどうか。

議員 5 予約制バスは佐治町等でもあるが、利用者は抵抗なく利用しているようだ。

会長 予約のキャンセルはできるか。

事務局 キャンセルはできるが、早めに連絡してほしい。電話をかけて予約することに慣れていただき、バス停でバスを待っていただきたい。

会長 循環バスは平日のみ運行しているが、年末・年始の運行をお願いしたい。

事務局 年末・年始等の運行希望について、利用者の声を聞いてみたい。

会長 循環バスには降車のボタンがない。運転手は乗車の方の降車バス停を知っているのか。

事務局 運転手は乗車の際に降車の場所を聞いて確認している。運転手の方も地域に慣れてきて、児童の顔や降車場所もわかってきたようだ。

(2) 簡易水道事業の上水道への統合に伴う水道料金及び維持管理体制について

事務局より資料4を基に説明。

委員 3 水道基本料金は、口径の 13mm と 20mm では大きな差がある。このため 20mm の方が 13mm へ改修する可能性があると思う。

事務局 利用者の個別に相談に乗ります。蛇口が 10 個までだと口径 13mm で大丈夫です。一般家庭で 20mm の利用者は少ないと思う。

委員 3 口径 20mm の方を調べて、周知してあげてほしい。

委員 3 29 年 4 月以降は簡易水道の窓口は青谷営業所となるが、窓口が遠くなる。

事務局 しばらくの間は鹿野町総合支所での窓口業務も続けたいと考えている。

委員 3 水道加入負担金はどうなるのか。

事務局 上水道・簡易水道とも水道加入金は一緒である。

(3) 委員提案議題について 資料 5

①総合支所で保管している地元作家の作品展示会の開催計画はあるか。

事務局 総合支所で保管している地元作家の作品展示については、平成 23 年に鹿野地区公民館の鹿野学講座において、伊江耕宗、牧野芝石、飯田年平、荒木茂喜などの絵画や、掛け軸、屏風などを鑑賞した。

現在のところ、展示会の計画はしていないが、総合支所のロビー等を活用した展示会の実施を計画する。常設ギャラリーを設置したい。今後、地区公民館等と相

談しながら開催について検討する。

②風水害などの災害時に、自主防災会が土嚢づくりできるよう、日頃より市有地に土嚢用の土を準備しておくことができないか。

事務局 真砂土、砂などを長期間にわたり屋外に置いた場合、雑草が生えたり、土が固まるなどの懸念がある。

例えば、自主防災会で、災害対応訓練の一環として、「土嚢づくり体験」などを企画・実施し、土嚢を保管していただければと考えている。この場合、モデル的な災害対策訓練として、土嚢や土、砂などの支給が可能。

議員 2 土置き場の草取りは自主防災会に任せるなど方法を考えて、実施してほしい。

事務局 もう一度検討してみる。

③PTA 会費や給食費が払えない家庭があるか。鹿野地域における子どもの貧困率を教えてください。

事務局 そういった家庭の有無について、現時点では、把握できていないが、参考までに、就学援助制度により、援助を受けている児童生徒は次のとおり。

○鹿野地域の要保護児童・・・ 1名

○ 〃 準要保護児童・・・ 12名

※鹿野小学校児童数：160名（H28.10.1時点）

○ 鹿野地域の要保護生徒・・・ 1名

○ 〃 準要保護生徒・・・ 6名

※鹿野中学校生徒数：84名（H28.10.1時点）

議員 1 そういった家庭には、どう対処しているか。母子家庭・父子家庭はどうなっているか。

事務局 母子家庭・父子家庭はひとり親世帯という事で一緒に扱われている。就学援助制度に基づき、学校給食費、学用品費、通学用品費、通学費、修学旅行費、医療費（虫歯治療等）新入学児童生徒学用品費などを援助している。

事務局 鳥取市ではこどもの貧困率を出したものは特にない。

平成28年2月1日「鳥取市子どもの貧困対策推進庁内連絡会」を設置し、

「鳥取市子どもの貧困対策推進計画」を作成しているところである。

この計画を策定する基礎資料として、子どもの成育環境調査を実施しており調査対象を抽出し、子育て世帯の経済状況や生活の実態を調査し分析しているところである。

特に経済状況がきびしいであろうひとり親家庭の状況は、

(児童扶養手当支給世帯) (H28.9 月末現在)

鳥取市全域	1, 860世帯	支給対象児童数	2, 784人
鹿野地域	22世帯	支給対象児童数	29人

(ひとり親家庭特別医療助成世帯) (H28.10.13 現在)

鳥取市全域	1, 339世帯	対象者	3, 395人
鹿野地域	15世帯	対象者	33人

事務局 貧困率とは世帯収入から国民ひとりあたりの所得を試算して順番に並べた時、真ん中の人所得の半分に届かない人の割合を示す。子どもの貧困率は18歳未満でこの半分の所に届かない人の割合を示す。2012年では16.3%でおよそ6人に1人の割合である。

(4) その他

①小鷲河地区公民館新築について

事務局より資料6を基に説明。

②そばの作付について

議員6 そばの作付が減少しているし、今年のおそばの出来もあまりよくない。

ふるさと鹿野の農業部門も2人では充実できていない。

事務局 ふるさと鹿野は独自におそばの出荷奨励金を創設するなど、そば生産を推進いただいている。集落営農を進めることで、有利な奨励制度を導入するなり、耕作放棄地にそばの作付を働きかけるなど、さらに工夫していかなければならない。

今年のおそばの作付面積は35haであったが、50haを目標としている。

5 その他

次回は11月15日(火)午後1時30分より鹿野町総合支所で開催予定。

6 閉会